

## 「国外調査（ポートランド研修）について」

8月17日～8月23日にかけて、ポートランド州立大学（以下、PSU）のバックアップの下、国外調査（ポートランド研修）プログラムが行なわれた。

○8月17日

初日、到着後、まずは研修の中心となるPSUの各施設をPSUスタッフにより案内をいただいた。

午後からは、PSUの西芝先生の講義があり、今回の国外調査において意識すべき事について、今一度確認をする作業を行った。

その後、3～4名で編成された各チームに分かれ、次の日に予定されている市内探索について、PSUスタッフと共に詰めの作業を行い、それぞれの班のコースや目的を発表し、アドバイスをいただいた。

○8月18日

この日は、各班に分かれ、ある班はポートランド市でその体系が整備されている自転車で、ある班は公共交通機関を活用して、それぞれのテーマに応じ、市内探索を行い、市民にインタビューを行った。

○8月19日

この日の午前は、各班のテーマ毎に前日の市内探索の結果を発表し合った。その中で、明確になった事、不明確だった事を挙げて行き、改めて今回のプログラムの中で意識すべきことを確認し合った。

その後、昼食を挟んで、PSU職員、生徒向けに東京財団の取組みの紹介が、東京財団の富田氏より行われた。

その後、ダン氏よりポートランドの行政について講義を受け、今一度ポートランド市の制度や地域特性について学んだ。

○8月20日

午前、オークグローブの駅建設予定地に移動し、駅建設において、行政と住民の間に入り、様々な住民の意見を取り入れながら合意形成を図った、アーバングリーンの活動を代表のチップス氏より講義いただいた。

午後からは、行政側であるメトロに移動し、担当より、メトロの事業や目指すべき地域づくりについて講義をいただいた。

その後、各班に分かれ、振り返りを含め、それぞれ、・信頼関係について、・リーダーの養成について、・市民全体のプロジェクトをどう増やすかについて、・組織内のコミュニケーションについてというテーマごとにグループ分かれた上でディスカッションを行い、各班で発表を行った。

○8月21日

この日は、市議会を訪問し、議場でポートランド市のコミッショナー（委員会）制のしくみについて学び、耐性のあるコミュニティづくりについてと題し、ポートランド市の第一線で活躍している、元議員や職員、市民の代表者を交えパネルディスカッションが行われた。ポートランド市において、人種の多様性を受け入れ、リーダーの養成を意識し、行政に反映させようとする姿勢を感じ、よりよい街にして行こうという姿勢に触れる事ができ

た。

午後からは、イノベーションラボと題し、各グループに分かれ、研修生とポートランド市のリーダーやグループの一員、PSU スタッフとともに、与えられた共通のテーマをもとに、それぞれのグループで解決策を考えた。異なる発想や解決策を直に感じつつ、個性ある、様々な解決方法が提案された。

○8月22日

この日の午前は、ポートランドプランについて、市の担当者より説明を受けた。総合計画の作成にあたり、地域の人々を巻き込み、よりよい街となるようにして行こうという気持ちを感じとる事ができた。その後、場所を移動し、ポートランド開発局（PDC）における持続可能性のある都市づくりの取り組みについて学び、その後、インタートワインアライアンスによる、投資と巻き込みの2つのキーワードの下、100を超えるパートナー団体との連携による、生物多様性と生態系の保全と復元を行う活動の講義を受けた。

○8月23日

最終日は、今一度各グループに分かれ、一週間で学んだ事を、ガバナンスモデル、市民リーダーモデルに落とし込み、振り返りを行い、各グループで発表を行った。それに対して、ダン氏、チップス氏よりアドバイスをいただき、西芝先生によるまとめの講義が行われた。その後、場所を移動し、ポートランド研修の修了式が行われ、休憩を挟んだ後、ポートランド市の日本庭園に移動し、フェアウェルパーティーが行われた。

○イブニングサイトビジット

この他、夕方を利用して、研修生の興味に応じた、現地視察のプログラムが用意され、さらに様々なまちづくりのスタイルについて学びを深める事ができた。

今回のポートランド研修は、8日間がとても短く感じる、とても充実した研修であった。

ポートランドで学び、肌で感じた事を、自分の地域に今後どう生かしていくかをさらに考え、実践して行かなければならないと思った。